

原点は大学時代の出会いと学生生活

内閣府副大臣秘書官(防災等)

富岡勇哉さん 1992年度法学部卒業(大阪府清風高校出身)



写真中央が富岡さん

現在の仕事とその魅力・厳しさ

2016年8月の内閣改造により、松本洋平内閣府副大臣秘書官を務めています。秘書官とは国会議員に3名付く公設秘書ではなく、各府省に国家公務員として所属する、いわゆる国の役人が、各府省の政務三役(大臣、副大臣、大臣政務官)に秘書として仕える職務内容です。

ドラマなどでは「秘書官」と言うと影の悪役のイメージがあるかもしれませんが(笑)、例えば、国会中継の際に大臣等にメモを持って行って何やら話し込んでいる、それが秘書官の役割のひとつです。

副大臣のスケジュール管理など、一般的な民間企業の秘書のような仕事もありますが、国の秘書官ならではのものとしては、副大臣が国会の各委員会で政府答弁を行う際に、各部局が作成した答弁を前日の深夜までにチェックして、答弁内容の補正・修正等も行っていきます。

私の秘書官としての担当施策は、防災、国土強靱化、地方創生など、国家的な課題に取り組む政策が中心です。このうち、最も分かりやすいのは防災担当です。昨年大ヒットとなった映画の「シン・ゴジラ」で、主役である内閣官房副長官役の長谷川博己さんに付く秘書官役を高良健吾さんが好演していましたが、その役割が、私の役割と同じものと思っただけであればイメージが湧くかと思えます。

日本のどこかで大規模災害が発生した場合、災害現場に政府調査団派遣となると、防災担当の内閣府副大臣とともに災害現場に赴き、被害状況の把握や首長との意見交換などを行います。実際に2016年12月に発災した新潟県糸魚川市での大火に対して、政府調査団長(内閣府副大臣(防災担当))の秘書官として、現地調査を行いました。

災害の現地調査団として被災地を訪問する際、災害対応だけではなく、様々な要請を受けることがあるのですが、災害時の政府調査団は、各省庁からの災害対応の専門家で構成されており、他の専門家はその場にはいません。そのような場合に、秘書官には何らかの知見を用いて副大臣の懐刀として対応することが求められます。さらに、国会議員や県市町の首長及び議員との連絡調整等を直接行うこともあります。

担当の政策課題が多岐に渡っているため上記の活動以外にも多くありますが、個人的には、副大臣を補佐して、各種施策を的確かつ適正に動かすための諸活動を指揮することが、今の仕事の魅力でもあり、その反面、様々な施

策の知識を自ら吸収して、適時適切に反映させることが求められる厳しさも感じています。

大学・学生生活、人生の転機となったこと

大学創設2年目での入学でした。1期上の初代の入学である先輩方も360名程で、小ぢんまりとした陣容に似合わない広大かつ綺麗なキャンパスに驚きました。

創設期の教員には当時の学界をリードする方々が多くいて、新たに司法試験にチャレンジする、教養を深めて社会に貢献する事などを実現可能にする大学として、その心構えが見える布陣や施設であることがわかったので、私自身も改めて自らを変えたいと強く思い入学しました。

私自身は出来の良い学生だったかと言うとそうでもなく、アルバイトや昔から憧れていたアメリカンフットボールに明け暮れる毎日でしたが、私を大きく変えることになった原点は「アメフト」と行政法を教えられていた「松澤浩一先生」が挙げられます。

松澤先生は国会関係の規則に明るい実務家の先生でした。私は検察官を目指していましたが、松澤先生の行政法の講義を聞く度に行政法の根幹に触れ、自らが行政官となって、この国の制度を良い形に変えていきたいという思いが強くなり、3年生の頃国家公務員を目指そうと思いました。

一方アメフトでは、勝利を目指し戦略・戦術を練るところや、指揮命令系統がシステムチックで役割分担を果たすことが求められること、自己犠牲の精神など多くを学びました。特に一番強く心に残っているのが、簡単に扱う事の出来ない楕円形のボールに「どこに転ぶのか分からない」、「どのように進むのか分からない」という人の人生に似たものがあると感じたことです。今でも、なかなかままならない事に接する度、アメフトのボールを見ながら「必ず突破口は見つかる」と呟く時があります。

総じて言えば、自由には義務が伴うこと、自ら生きる道とは何かを考えるきっかけを大学が与えてくれましたし、大学が無名であっても負けるものかという気概を授けてくれたのが、駿河台大学での学生生活そのものでした。

学生へのメッセージ

皆さんに伝えたいことが3点あります。

ひとつは、保護者のご父兄が社会に出るまでの4年間という猶予期間を皆さんに与えてくれたことに対して、皆さんは、この大学でやりたいことを自らの頭で考えて思うままに打ち込んでください。打ち込むものは何でも良

いです。時間は誰しも平等に1日が24時間ですが、学生生活という4年間は、生涯の友人を得るのに、また社会人一步手前の自由な時間を得る貴重な機会です。社会人になると時間さえも自由にならないことが多くあります。ぜひ、多くの経験を得ること、良き友人に出会うこと、知識を貪欲に得ること、アルバイトなどを通じて社会経験を得ることを心掛けてください。

2つ目は、「量は必ず質になる」です。学問も仕事でも同じ作用があると思っていますが、まずは量をこなしてください。こなした量が、必ず質に転化する時が来ます。愚直でも、まずは真正面から、量をこなすように心掛けてください。

3つ目は、「中途半端はゼロに等しい」です。今まではどうだったのかは問いませんが、これからは、まず真剣に何事にも取り組んで欲しいということです。中途半端にやっても達成できることがあるかもしれませんが、ただ、安易に手に入れたものは安易に散逸します。いつまでも中途半端だと、得られるものは何もないと断言できます。

駿河台大学で学生生活を送る皆さんには、良き経験を多く積んでもらい、自ら進むべき道を見極め、自らの判断で社会に羽ばたいて欲しいと思います。

なお、私は大学同窓会の役員を務めています。大学同窓会は、現役学生やOBの皆さんのより一層のご活躍を祈念し、応援しています。お困りごとがあれば、ぜひ同窓会事務局や役員に相談してください。



前列1番左が富岡さん

Profile

■ とみおかゆうや

1988年 法学部に入學。
1992年 総理府(現内閣府)入府。
総務庁(現総務省)、民間法人(認可法人)、内閣官房、環境省などに出向。
2014年9月から2015年10月内閣府大臣政務官秘書官(防災:御嶽山現地災害対策本部)。
2016年8月より内閣府副大臣秘書官として活躍中。